

令和4年度第3回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和4年12月26日(月) 13時30分～17時00分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員 出席5名

(※欠席4名 宮沢一正委員、田村康樹委員、齋藤誠司委員、関晴恵委員)

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕 委員、田村武 委員、熊谷稔 委員、新田育夫 委員、赤塚貴史 委員

【滝沢市】

滝沢市長 武田哲

上下水道部 部長 及川竜悦

水道総務課 課長 小林純子、総括主査 高橋竜也、主任 関向洵樹

水道整備課 課長 角掛雄一、総括主査 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵

下水道課 課長 古前田聡、主幹 高橋利昌、総括主査 黒澤滋

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

市長挨拶、委員及び事務局の紹介

3 議事

(1) 副会長互選

事務局案により、田村武委員に決定した。

(2) 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に熊谷稔委員、新田育夫委員を指名した。

(3) 報告事項

以下①～③の報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

①令和3年度滝沢市水道事業会計決算について(水道資料1～4)

【田村武委員】資料1で(給水人口の)前年度比が109人減ったのに使用(年間総配水量)は1.3%増えていることについてもう少し説明が欲しい。

【水道総務課長】109人減という数字は3月31日時点の人数である。調定件数、いわゆる月々に算定する件数は増えているが、1件あたりの水量、料金は減少傾向にある。人数は少ないが、調定件数が多いため全体としては給水収益が上がっている。

【田村武委員】説明があるとわかるが、資料にある数値でわかりやすく対比ができると良い。

【水道総務課長】水道資料2、決算書の23ページに水道料金調停について集計している。例えば、当年度の年間調停件数が約26,700件あり、前年度は約26,300件と約400件増えている。また、22ページに給水人口の比較があるが、前年度は5万人を超えている（当年度は少ない）。3月31日が平日か土日かによっても左右され、また、給水人口の算出方法の見直しをしたことも影響している。

【山田委員】資料1の4ページ、料金徴収業務の業務委託について業務改善について業者への評価を行っているが、どういう視点に立って、どのような評価項目で評価したという公開情報はないか。

【水道総務課 高橋総括主査】公開はしていないが、契約する際に評価項目を委託業者と取り決めし、毎月、委託業者でモニタリングしている。それを受けて委託者側で評価し委託業者に結果を報告している。

また、評価項目以外にも受託者側自らの提案についても評価対象としている。

【山田委員】注意してほしいのは、民間の活力は競争によって生まれるため、同じ業者が継続して契約していることについて、どういう経緯で継続して契約となったかを市民がチェックする責任があると考えます。そのためには公平な情報があったほうが良いので、今後こういった委託契約があった場合はできるだけ透明性を図った情報提供の仕方を検討してもらいたい。

②令和3年度滝沢市下水道事業会計決算について（下水道資料1～4）

【赤塚委員】水洗化人口は前年度から増えているが、行政区域内人口は減っている。これはカウント時期の違いか。

【下水道課長】行政区域内人口は市全体の人口で減となっている。水洗化人口は下水道が整備されているところの人口で、令和3年度に供用開始となったところがあるので、市の人口と整備して範囲に入っていく人口はリンクしていない。ただし、整備は頭打ちになっているので今後は人口減少と同じになると考えられる。

【山田委員】資料1、1ページの業務概要中の立法メートルの単位の3は上付き文字であるので修正願う。

また、資料1の5ページに流動比率が経営指標を大きく上回っているが要因は。

【下水道課長】流動資産が分子になるが、令和3年度決算において雨水の繰越工事にかかる前払金が含まれている。工事自体は未完了で建設仮勘定に入っているが、お金の動きとして流動資産がその分大きくなっている。経営改善して流動資産が増えているわけではない。

③令和4年度滝沢市下水道事業の進捗状況について（下水道資料5）

【山田委員】下水処理施設整備の関連で、雨水豪雨等により冠水被害等全国的に多くなっているが、令和4年度において冠水被害や雨水排水上の施設の不利（足りない部分）といった問題視されるものはあったか。

【下水道課主幹（河川課長）】令和4年度において、滝沢市内では雨水処理施設で

の被害はない。

【山田委員】浸水対策について、リスクの高い視点から優先的に行っていると思うが、進めるうえで進捗状況として課題はあるか。

【下水道課主幹（河川課長）】市街化区域の中の雨水処理ということで、大釜については放流先が農業用施設となっており、現在土地改良区が管理している。土地改良区と管理協定を結び、現在実施している雨水施設の浸水対策が完了した後は、市で全面的に維持管理することとしている。ただ、農業用施設ということで5月～9月は我田引水が必要となるため協定についてさらに詳細を詰める必要がある。

【熊谷委員】（令和4年度下水道事業箇所図について）ピンクが全体計画区域で、赤が今年度工事するところとなっている。果てしなくピンクの部分が広いが、いつピンクの部分は下水道を整備してもらえるのか。

【下水道課長】全体計画は、国が潤沢にお金を出してくれる時に、ある程度の間があるところに下水道を整備して汚水処理（衛生面）を良くしていこうとする範囲である。また、下水道は都市施設ということで市街化区域に整備するものである。市街化区域外に整備するものは都市施設ではないのでよほど効率が良くないと下水道事業として成り立たず、現時点では1haあたり40人いないと採算が取れない。現段階で、ピンクの部分については良くて35人/haである。お金がある、あるいは下水道使用料をある程度負担する場合は整備可能だがお金に限界があるとピンクの部分の整備は難しい。今後全体計画のエリアについては皆さんと話し合っただどこまで整備するあるいは負担するか決める必要がある。

【熊谷委員】この地図を見ると下水道が来ると希望をもってしまう。

【下水道課長】計画自体が滝沢市単独の計画ではなく、上位の県の計画になるので今やらないからといって削れるものでもない。現状、資料的な部分では、全体計画のところで10年以上かかるものは出しているのだからわかりやすいようにしていきたい。

【山田委員】資料4の54ページに「今後新たにいずみ菓子地区と盛岡農業高校周辺地区において整備が計画されているが、投資効果を見極めながら整備を進めるべきである」とあるが。

【下水道課長】いずみ菓子地区については、1haあたり35人であるが、流域幹線（県管理の国道）が通っており、そこへの接続距離が短く費用対効果上70年くらい見てもプラスとなる。ただし、市街化区域外で団地内浄化槽があり、すべての住民の押印が必要なため現在組合が頑張っている。確定ではないが、事業計画上エリアを載せておかないと工事ができないため名前が出てくることになる。

【赤塚委員】浸水対策について、雨水は速やかに川に流すということか。

【河川課長】雨水対策については、市街化の中に降った雨の処理を速やかにする目的がある。現在滝沢で行っている大釜地区については、雨水の処理先が農業用の排水路となっている。排水路自体が市街化を想定したものでないため処理

しきれず住宅地に雨水が逆流してしまっている。これを解消するために国道 46 号線に新たに横断管を敷設し排水路に集まった雨水も含めてより多くの量を雫石川に排水する施設を作っている。

【赤塚委員】法的には河川法によるものか。

【河川課長】雨水処理については河川法の適用を受けないのでリンクするものはないが、放流末端が雫石川で国管理のため十分協議したうえで設計し事業実施している。

(4) 審議事項

以下①～④の審議事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

①令和 5 年度滝沢市水道事業会計予算基本方針について（水道資料 5）

【田村武委員】柳沢大湧口の水源について上流はすべて自衛隊の土地で民間の土地はないのか。

【水道整備課長】すべて自衛隊の土地である。

【田村武委員】安全な水を飲むために自衛隊との協定等あるか。5 万人が飲む水の水源としている以上何か話を持つ必要があるのでは。

【上下水道部長】正式な協定はないが、一本木の簡易水道が市の上水道になっている時点で、継続して自衛隊も水を使うし我々も水を使うので、定期的に情報交換し水を有効活用することが一番重要と考える。

【田村武委員】水道部の範囲を超えた話になるかと思うが、水を飲んでいる市民の安全を考えるのであれば必要かと思って意見した。

【上下水道部長】ありがとうございます。

【山田委員】昨今、有機フッ素化合物（PFOA、PFOS）などの人体に有害な成分を含み特に米軍基地で使われ沖縄の水源を汚したということで話題になった化学薬品がある。自衛隊では使わないという方針はあったと思うが、市民環境としてはそういう施設から有害な物質がでないことを情報交換をして水源を汚す可能性についての安全の担保をどこかで得る必要があると考える。そういった働きかけはぜひしてほしい。

【上下水道部長】市では、自衛隊の施設があることによる補助事業を毎年度実施しているが、それについて毎年度勉強会という形で意見を交える機会があるので改めて水源についてということではなくそういった場で情報交換できればと考える。

【山田委員】PFOA、PFOSの環境分析技術は岩手県の保健環境センターが全国的にもトップクラスの技術を持っている。後ろ盾となる機関があるので情報をもらうことも大事かと思う。

【山田委員】資料 5 の 1 ページの滞留水排水の実施について、水道水が滞留しやすいことが結果的に異臭味の発生のリスクがあるのとらえていいか。それとも、残留塩素濃度の維持ができないという意味とらえていいか。

【水道整備課長】両方です。

【山田委員】コメントとして異臭味を発生させないような文言を一言入れたほうが

いいと思う。アンケート調査で異種味を訴えられる件数があるのでその解消につながるような事業計画があるため市民の安心材料になると思う。

②令和5年度滝沢市下水道事業会計予算基本方針について（下水道資料6）

- 【山田委員】下水道経営基盤の充実の不明水対策について、令和4年度の進捗状況報告の際は触れられていなかったが、現状どうなっているか何か情報があれば提供願う。
- 【下水道課長】現状は、数値化が難しいマンホールの蓋交換及び取付管の交換を持って不明水対策として実施していたが、今年度下水道公社と話し合いを持ち、次年度に下水道公社とコンサルを交えて不明水対策についての計画を立てることとなった。下水道公社は来年度から不明水対策の現場に入る旨話があったが、それでは仕組みづくりができないので仕組みづくりとして来年度委託料として370万程計上している。
- 【山田委員】不明水は変わらず検出されていて、使用料徴収できない部分になってくるのでなんとか解消したいということでもいいか。
- 【下水道課長】お金をかけた分の費用対効果は悪いと思うが、放置すると道路陥没等の恐れもあるので、エリアを絞りつつやっていきたいと考えている。
- 【山田委員】（ページ6-3）浄化槽の整備について7人槽、10人槽というのは床面積にかかるものかと思うが、現実、整備してほしいという対象世帯は人数が減ってきて、建坪はあるけれど家族数が少なく浄化槽の規模が合わないという例もあると思うが実際に7人槽、10人槽のニーズはあるのか。
- 【下水道課長】委員のおっしゃるとおり床面積で人槽が分かれます。自分が今4年目だが、実際、家が大きい人がいないということで設置に対しての人槽を落とすといった事例が2件ほどある（住民票等の証拠書類を付けて保健所に報告）。また、市街化区域外、あとは農地や分家といった話になると意外と家族の人数が多く立地場所の条件がそうなので人が少ないといった相談がきていない。ただし、今後下水道区域を狭い範囲で決めた場合は件数が増えてくると考えられるのでその場合は保健所と相談しながらやっていきたい。

③第3次滝沢市水道事業ビジョン（案）について（水道資料6）

- 【山田委員】今回の案はいつ時点で確定になるのか。今回の意見を踏まえ修正等加えたものを再度審議会にかけるのか。
- 【高橋総括主査】次回1月25日開催予定の第4回経営審議会にてビジョンと中期経営計画については確定とさせていただきたい。
- 【水道総務課長】2月中旬には議会に説明しなければならないので、逆算するとそれまでに答申をいただかなければならない。できれば次回は答申（案）に入っていきたい。
- 【山田委員】今回の意見をいただいた後の修正についてはどの時点でチェックすればいいのか。微調整で済めば次回でいいと思うが。

【水道総務課長】軽微なものやお任せいただけるのであれば、山田先生と調整したうえで次回の審議会の時にお知らせする形でどうか。

【山田委員】本日人数も少ないので、今回の意見をいただいて事前に各委員に送ったもので軽微な修正を受けたいということで、できるだけ次回の審議では時間をかけないように事務局から説明があったほうが良い。

【赤塚委員】財政計画の設定条件について、10%だったり5%だったり検討しているが、これは修繕計画等を読んで変えているのか。

【水道総務課長】今のところは整備計画の詳細がなく、アセットマネジメントというおおよその目安で行っている。配水管であれば毎年同じくらいの金額で均すことができるが、施設となると一時期に大きく費用がかさむことになるため莫大な資金を準備するためにどのくらい料金をいただくか、また、借金をすることで料金を抑えたりといったバランスを考えながら更新需要によりシミュレーションしている。

【赤塚委員】収入は水道料金が主体か。

【水道総務課長】下水道事業だと国の補助金が入るが、水道事業は補助メニューが少ない。水道事業の省庁が令和6年より厚生労働省から国土交通省に代わる予定である。そういったタイミングで補助メニューが変わってくる可能性もあるので動向を見ながらできるだけ補助金を活用しつつ料金の上げ幅を抑えていきたい。

【山田委員】28ページの応急給水一覧表について、徒歩圏内10分以内でアクセスできるとか、これだけの給水所を用意した設置の考え方があれば説明しておくとういのは。

また、第4章61ページの更新需要の見通しの中で、図4-1にアセットマネジメントの全体像の中で、市が実施したアセットマネジメントの範囲を赤線で囲っているが、この範囲でシミュレーションすることの理由付けを書いておけばいいのではないか。

あと、国が設けた新水道ビジョンの中に【「住民」にも、水道事業の理解と経営参画の認識、地域の水道を支えるオーナーともいえる意識、水道事業者とのコミュニケーションの確保、といった役割が期待される】と書いてあって、また、【水道の現状や課題に対する理解を深め、自らも水道事業の経営に参画している認識で水道に関わる】という文章もあるが、これを今回のビジョンの中でどういう風に反映させるか気になった。例えば67ページの課題の一覧表の中に「課題9. 広聴広報活動・情報発信の充実」、「課題10. 民間委託、広域連携の検討」といった課題が挙げられている。課題という風にとらえるまでもないが、水道を利用する市民が受け身のような対応でしかビジョンの中に設けていないのではないか。もう少し参画の仕方が検討できるのではないか。日ごろから市民の方々に水道施設への注意が向いているあるいは何かあったときにすぐ情報提供もらえるような関係性を強く持つことが望まれていると思う。

【水道総務課長】下水道のマンホールの話で、年に20個、40個という単位でし

か交換できていなくてかなりの年数をかけなければすべて交換できない状況にある。また、どこが老朽化しているかという情報も職員が見て回るのは難しいが、どこかの取り組みで、ゲーム感覚で自分の身の回りのマンホールの写真を撮って送ってもらい整備台帳に取り込み整備に結び付けるといった事例を聞いたことがある。ゲームとはいえ住民の方々も一緒になって関わるので取り組みとしては面白いと思う。

【山田委員】地域の中学校、高校の生徒と一緒に考えると、いろいろな取り組みをすることで自分たちの財産としての上下水道のインフラの在り方を考えていくきっかけになると思う。

【熊谷委員】自分が審議会委員に応募したのも浄水場の見学をして水の作られ方を知ったからである。元教員なので滝沢の中で教員同士の集まりがあり水道の話をして見たがほとんど知識はゼロであった。事実を知る、実態を知らない限りは自分も経営者であるという意識は湧いてこないのではないかと。毎日どのくらいの塩素量が必要か確認するといった努力をしながら経営している等の事実を知る必要があり、上下水道部から情報発信して経営者意識に結びつけることができないか。

【水道総務課長】例えば、老朽管を更新しますといっても市全体のことだと自分のことだと捉えられないが、自分の家の目の前を通っている管だと気になると思う。ここ1、2年で漏水があった箇所を目に見えるように地図等で表すと関心を引き出すことができるのではないかと。

【山田委員】受益者が経営に関わろうということは今まで強く言ってこなかった部分ではある。今ある施設をできるだけ経済的負担をかけずに長く使っていこうとなると、日頃のメンテナンスや関心を持ってみておくということは大事になってくる。使っている人たちが目を光らせておくことで小さな傷のうちに修理ができるといった役割を意識してもらえようないまい書き方がないか。

【赤塚委員】漏水について、市民側で気づくためどういう兆候があるか。

【水道整備課長】浄水場では各配水池の配水量を24時間監視している。大きな漏水であれば地表に出てくるので通りかかった人が気づくことができるが、小さい漏水であれば地表に出てこない。夏場にいつも湿気っているとと言われて発覚した事例はあり、また、冬場は漏水箇所だけ雪が解ける。

【山田委員】今お話があった兆候あるいは経験則というものも情報発信があってもよいのではないかと。年2回ほど広報を出していると思うが、漏水の情報発信をしていただけるような話題提供をして住民参加を働きかけるのがいいのでは。

【赤塚委員】コロナで施設見学が中止されているが再開の基準は。

【水道整備課長】現状では来年度からかなと思う。ただ、対応する職員が全員感染すると水を作れなくなるので、対応する職員を決めて人数制限等かけることになる。

④第3次滝沢市水道事業中期経営計画（前期）（案）について（水道資料7）

- 【山田委員】16ページに耐塩素性病原生物への対策を継続しますとあり、取り組み評価項目として表流水の浄水過程において、ろ過水濁度が0.1度以下とあるが一般の人が読んでもわからないので感染性微生物の管理は濁度でもって実施しているということを補足で説明入れたほうが取り組みがわかりやすい。
- 【山田委員】今回の計画では、金沢川の表流水利用は残すが、諸葛川は廃止する計画という認識でよかったか。
- 【水道整備課長】休止です。
- 【高橋総括主査】ろ過水濁度について、ビジョンの資料編（資6）に書いている用語があるがこのような形のものを載せるということか。
- 【山田委員】関連用語にろ過水濁度を入れるとよい。
- 【田村武委員】建設事業改良計画の柳沢取水ポンプ場の方針欄に後送りとあるが先送りではないか。
- 【水道整備課長】そのとおりです。
- 【赤塚委員】19ページ漏水対策の推進の取組評価項目として漏水修理を速やかに実施しているとあるが何日以内とか具体的な数字はあるか。
- 【水道整備課長】大きなものは当日中に対応している。配水管の漏水は即日対応であり、敷地内の漏水については翌日に対応したこともある。
- 【熊谷委員】道路を掘って作業するとき、ほかの部署の工事と合わせてやるように努めていくとの記載がどこかにあったが、すごくいいことだと思った。
- 【山田委員】過去の審議会での意見交換の中で建設の経費を減らすために他の部署で同じ地点での道路工事の案件があれば調整して行う旨事務局から説明があり、今も継続してあるなら19ページの中に記載してもよいのではないか。

その他

- 【熊谷委員】財政シミュレーションのグラフを市民に向けてもっとわかりやすく提示してもらいたい。
- 【田村武委員】現在、物価が上がっているので、整備計画通りいかないことが出てくると思う。
- 【水道総務課長】ここ数年の物価上昇率や労務費の高騰を加味して費用を辛めに見ている。今後の整備計画を緻密に立てられれば、このようなグラフにはならないのではないかと思う。そのときに、補助金等含めて5年毎に8%、10%の改定とならないようにできればと思う。

4 その他

- 【赤塚委員】水道水源保護区域に滝沢市の土地はあるか。
- 【水道整備課長】春子谷地はほとんど滝沢市の土地であり、諸葛川周辺はほとんど民地です。また、金沢川周辺もほとんど民地です。
- 【山田委員】間伐作業とかあれば市民に公開して一緒にやるとかそういった働きかけで関心を得ることができるのでは。

- 【水道整備課長】ほとんどシルバー人材センターに委託している状況ではある。
- 【山田委員】知らない間に管理されているのではなく事業の説明の機会にもなるので、現地体験会みたいなものも実施してみてはどうか。
- 【水道整備課長】来年度コロナが落ち着いたら検討する。
- 【赤塚委員】地下水のボーリングを行う場合の申請等必要になるのか。
- 【水道整備課長】規制区域については条例の第9条に申請条件を記載している。井戸の中に水中ポンプを入れる場合は許可を取ることとなる。
- 【赤塚委員】自然湧水の場合は申請不要になるのか。
- 【水道整備課長】そうです。
- 【山田委員】普通自噴はない。
- 【水道整備課長】姥屋敷水源は深井戸湧水で自噴する。条例にかん養林を取得するとあるが全部取得するわけではなく、自噴する水源周辺の土地を取得することになる。

・次回の審議会は1月25日（水）を予定している。時間は今日と同じ午後1時半、場所はこの会議室である。次回の目標としては、今日手直しが入る部分を修正し答申（案）に入りたい。2月15日に議会説明となっているので、その前には市長に答申しなければならずタイトなスケジュールとなるが、今回はかなり具体的などころまで答申を作成することを目標としている。

5 閉会